

令和6年度第1回宮崎県循環器病対策推進協議会 会議概要

1 日時

令和6年7月4日（木）午後6時30分から午後8時10分まで

2 場所

宮崎県防災庁舎5階 防53号室

3 出席者

・委員

牛谷義秀委員、大田元委員、沖田典子委員、落合秀信委員、海北幸一委員、金丸吉昌委員、児島慎也委員、花田智委員、濱畑美奈子委員、林正太郎委員、矢野憲男委員、脇田浩之委員

（50音順）

・関係各課

医療政策課、国民健康保険課、長寿介護課 医療介護連携推進室、障がい福祉課、雇用労働政策課、スポーツ振興課担当職員

・事務局

健康増進課

4 議事

宮崎県の循環器病対策の推進について

5 議事について委員からの主な意見

○脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について

委員) 心不全も脳卒中の方もいずれも生活支援の場を一緒に見た取り組みがずっと続いていくかと思うのですが、ケアマネ協会のケアマネジャーの居所というのも大事になってくると思います。日本脳卒中医療ケア従事者連合で言われた宮崎県支部の設立の中にケアマネ協会があり、県内を県域ブロックに分けたところに代表者がおりますので、声かけていただいて、おそらく病院の中をMSW、地域に戻ったら必ずケアマネとなり、脳卒中中心不全の患者さんの取り組みについて関心を持って取り組んでおりますので、ぜひよろしく願いいたします。

委員) 心不全・脳卒中手帳の話がありましたが、手帳の作成は、大体いつ頃に出来ますでしょうか。

委員) 宮崎県全体で同じ心不全手帳を使って、そして一律の心不全管理をしていこうと考えております。脳卒中・心臓病等総合支援センターが実際に立ち上がって、8月9月、少し遅れるかもしれないのですが、正式に立ち上がって、この心不全手帳も県内に配られるようにしていきたいと考えています。

委員) 私も心不全手帳とお聞きしまして、非常にいい取り組みだと思うのですが、具体的に心不全手帳といいましたら、患者さんの健康データだとか、そういったのをずっと入れていくという形になっているのでしょうか。

委員) 1つは心機能を維持するための取り組みとか生活習慣とか食事など一般的なものが書いてあったりとか、或いはセルフチェック。日々自分の状態をチェックしていく中で、こういう症状が何ポイントぐらい出ると病院に行きましょうとか、或いは相談しましょうとか。最近の心不全手帳はそういうところもしっかりと書いてあるので、患者さんが自分の心不全手帳を見ながら、自分は次どうしていったらいいのかわかる、そんな手帳にしていければと考えております。プラス、宮崎県で自分はどこに住んでいて、自分が悪くなったときに、一番近くのどこに駆け込むのか、そういうことがわかるような手帳にしていければと思っています。

○循環器病人材育成事業について

委員) 心不全療養指導士とリハビリテーション指導士の助成金のスキームですが、とある医療機関に聞きますと、実際は受ける人に対して、病院側がお金を支払うことはしておらず、あくまでも個人で受けている。個人で受けているパターンなので、県が払うとなるとなかなか個人には払えないから医療機関に払うということになるのかもしれないのですが、実際は個人でお金を払って試験を受けに行ったりしているので、病院が何かそこで介入しているかというとしてないのですよね。なので、これはホームページ上にアップされたとしても、このシステムを使ってやっている病院がなければ、多分、応募できないかなと思います。いかがでしょう。

県) 我々が循環器病人材育成事業としてこのような支援をしようと思ったきっかけは、今後、高齢化に伴ってこれらの資格のニーズ自体は高まっていくと考えております。そして、医療機関においてもやはりこういった人材が欲しいということで、真に必要な資格だと考えるのであれば、医療機関の方から支援をしてでも受験を促してくれるのではないかと考えております。今年度から始めるのですけれども、3年間の事業として考えております。支援のスキーム自体は、県の方から個人に直接、受験費用を支援するというのが難しいため、まずは医療機関への2分の1の支援ということで、活用状況も見ながら進めていき、なかなか活用が増えていかないということになった場合には、中身の改善、そのような部分の見直しも必要になってくると今の段階では考えております。

委員) 各病院の執行部とか院長だと思のですけれども、病院でまずお金を支払おうという姿勢になってくれるかどうかというところになるかなと思いますけど、その辺りは促すようにされるのでしょうか。

県) 当事業を開始するときには、当然アナウンス等含めて県の方から、例えば県医師会にもご協力を仰ぎながら、こういった制度を始めますということをアナウンスして参りたいと考えております。

○啓発・予防の取組について

委員) 県民公開講座のところの意見ですが、専門家の先生の話も勉強になるのですが、経験された方の話を聞いた方がパンチが効くというか、心に刺さるのではないかなと前から思っていました。他県でそのようなことをされているかは分からないのですが、そういった形の視点も大事ではないかと考えておりましたので、一意見と

してお伝えいたします。

委員) 要望というかお願いですが、一次予防、二次予防に対する取り組みをご説明いただきまして、やはり発症しないようにするのが一番大切だと思うのですが、三次予防の発症した後に、直ちにタイムリーにどうやって受診行動に乗せるか、その辺りも啓蒙をお願いできればと思います。例えば、脳卒中を起こしましても、症状が軽かったり、疑わしかったらこれで病院行っていいのだろうかとまだ悩んで、そして辞去される患者さんもいます。ぜひ予防も大切ですが、一旦発症した後の適切に病院に掛かりましょうとかそういった啓蒙も入れていただければと思います。